

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p><b>1 多世代循環型のまちづくりについて (25分)</b></p> <p>第5次鶴ヶ島市総合計画には、市の将来像として、「鶴ヶ島は元気にする～明日につながる活力のまち 支えあう安心のまち」とあります。基本構想の計画最終年度である平成32年に見込まれる人口想定は、概ね71,000人としております。</p> <p>前回の6月定例会において、人口増加策についての一般質問が出ておりましたが、今回、私も、総合計画を踏まえた上で、国全体として人口が自然減になって行く中での、今後の鶴ヶ島市としての人口対策について、ひとつの政策提案を含め質問いたします。</p> <p>現在の鶴ヶ島市は、昭和50年代に、東京のベッドタウンとして郊外化が進み、団塊の世代を中心に急速に人口の増加をみました。当時は、全国的にも平均年齢の若い市でありましたが、今後は、急速に高齢化が進むことが予想されます。</p> <p>多くの自治体で行われてきたことですが、こうしたベッドタウン化によるまちづくりは、分譲撤退型の一世代の住環境のみ考えたものであり、次世代の若者たちは、新たな住環境を求めて他の地域に出て行くケースが多いと思われます。</p> <p>日本全体の社会経済状況の変化、生活環境の変化に伴い、かつての大家族中心の家庭から核家族化が進んでいきました。こうした需要に合わせての開発が進み、現在に至っているわけですが、こうした核家族化により、残された高齢者の問題や子育て環境の問題など多くの社会的な問題がクローズアップされてきております。</p> <p>こうした中で、「いつまでも住み続けられる街」をテーマとして、千葉県佐倉市の「ユーカーが丘」が多世代型のまちづくりを行っております。昭和50年代からのデベロッパーによる開発であり、「住民・行政・デベロッパー」による三位一体のまちづくりを基本理念に、まちづくりには、「家族愛」、「近隣愛」といった本来普遍であるものと社会構造や社会制度の変化に伴い、その都度対策を講じるべきものとの「変えてはならないもの」と「変えなければならないもの」を考慮したまちづくりとして、タウンマネジメント(街の成長管理)の実践を行っております。民間開発でありながら、安心安全、コミュニティ、健康福祉、子育て支援、街並み管理、レジャーなど多岐にわたって総合的なまちづくりを行っております。</p> <p>この事例を持ち出したのは、当市において、新たに開発による多世代型のまちづくりをとということではなく、この事例の中から、新</p>	<p>市長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>たな開発を伴わなくとも、現状ある土地建物を活用し、多世代循環型として再生しながらのまちづくりの可能性を見出すことができるのではないかとして例示しました。多世代循環＝地域内における同居という発想です。具体的には、若い世代が一般住宅に、高齢世代がバリアフリー型マンションに、建物はその都度リノベーション化して再生活用し、世代循環させていくというものです。</p> <p>新たな住宅開発による市街化区域拡大は、人口の自然減が進む中で、許認可等の問題も含め現実的ではなく、また、近隣市で大々的に行われてきた都市計画法の規制緩和による都市計画法第34条第11号の調整区域における開発は、将来的な基盤整備等による行政の後年度負担をもたらすのみならず、環境問題、市街化区域資産との整合性の破壊など都市計画の放棄にも等しい行為であり、今後とも適切な適用が必要なものであります。</p> <p>新たな開発をとまなわず、今あるものを活かし、付加価値をつけていくリノベーション化により再生活用し、地域内に多くの世代が同居、循環していくことで、ふるさとに住み続けることができる。当市は、都心への通勤圏内であり、交通網も利便性の高い地域であります。これからの若い世代が新たな住環境を求めて外へ出て行く必要がない環境づくり、親の近くに住むことの出来る環境づくり。これらを循環していける環境をつくることで、新たな発展性を生むことになると思われます。</p> <p>新たな開発に活性化を求めることなく、再生、循環によりまちの活性化を図る。こうした取り組みは、本来民間主導で進めていくべきことではありますが、人口の自然減に対する人口対策のひとつの考え方、方策として、行政としても、不動産、建築業関係者や地域住民と連携していく必要があるものと思います。</p> <p>こうしたまちづくりの連携をもって、ふるさと鶴ヶ島に生まれ育った人々が、次の世代も地域として同居できる環境、そして土台をつくっていくことこそ、これからの鶴ヶ島市のまちづくりに必要ではないでしょうか。こうしたことを踏まえて質問いたします。</p> <p>(1) 総合計画における将来人口の推計根拠について  (2) 少子高齢化による人口の自然減の中での、市としての取り組みについて  (3) 多世代が地域として同居できる循環型まちづくりについて</p>	

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p><b>2 平成24年度市民体育祭について (20分)</b></p> <p>昨年度2度にわたり、会場数が5会場から3会場に変更し開催されました市民体育祭について質問して参りました。</p> <p>今年度も昨年度と同様に3会場にて開催される第63回市民体育祭の開催について、質問させていただきます。</p> <p>昨年度、会場数が5会場から3会場に減り、自治会の参加率も概ね20%減、会場の縮小となった地区がほぼそっくりそのまま参加しない。というよりも参加し難い、参加できない状況のまま、今年度の市民体育祭も昨年度と同じ条件で開催されるようであります。これについては、体育協会の主催のもと、平成21年度から検討してきた結果として、昨年度から3会場での開催となったこと。昨年一回の開催状況をもって評価、判断するのは難しく、その後の意見等を参考に、今後多くの自治会に参加してもらえよう体育協会と意見交換を行い、改善して行くこと。などのご答弁をいただき、その旨は認識しているところであります。また、市はあくまで後援の立場であるということも理解しております。</p> <p>賛否様々な意見のあった昨年度の市民体育祭を踏まえて、今年度の開催にあたり、後援者としての市に対して質問いたします。</p> <p>(1) 今年度の開催内容について  (2) 昨年度の市民体育祭についての多くの意見等があったと思われるが、今年度の開催にあたり、それらに基づく反省点、改善点について  (3) 市としての市民体育祭の位置づけ、開催目的について  (4) 今後の体育祭のあり方について  (5) 不参加の自治会について、市はどう考えるか。</p>	<p>市長 教育委員会委員長</p>
<p><b>3 防犯対策について (15分)</b></p> <p>最近、公民館などで不審者出没や痴漢出没の防犯情報の掲示をよく目にします。犯罪の中でも、例年夏は、性犯罪被害が増加する傾向にあるとのことでもあります。節電等の影響もあり、窓の無施錠による侵入被害や夜道の一人歩き等による痴漢被害なども多発しているとのこと。また、18歳以下の者に対する、犯罪行為に至らないが、「声をかける」「手を引く」「後をつける」などの行為で、</p>	<p>市長</p>

質問の件名及び質問の要旨(質問時間)	答弁を求める者
<p>略取・誘拐や性的犯罪等の重大な犯罪の前兆と捉えられる事案なども多く発生しております。</p> <p>平成24年1月～5月までの埼玉県内で発生した性犯罪被害件数は、約150件にも及ぶとのことであり、犯罪の性質から被害届が出されない件数を含めれば、この何倍にもなるだろうとのことあります。</p> <p>夜間、暗い道や人通りの無いところは避けるなど、個人個人の危機意識を高めることも重要ではありますが、事情によりやむを得ずということもあり、個人の防犯意識とあわせて、行政においても防犯対策を講じていく必要性は高いものがあると思います。</p> <p>さる7月にも、鶴ヶ島運動公園から南中学校西側のセブンイレブンの区間で、夜間10時頃、女子高校生がアルバイトの帰りに、車から降りてきた不審者に自転車ごと倒され、大声をあげたことで事なきを得たという事件も起こっております。</p> <p>この区間は、数百メートルの間に防犯灯などが2本しかなく、人家もまばらで、夜間の車通りも少なくなります。また、運動公園周辺には、よく不審車両が停まっていることもあるとのこと、西入間警察署でも、この周辺は夜間パトロールを重点的に行っておられます。</p> <p>この通りは、南町や松ヶ丘の住宅街に通じる道であり、学生が部活動やアルバイトなどで、夜間通行することが多々あるようです。</p> <p>こうしたことを踏まえて、市の防犯対策、特に不審者や痴漢被害等、夏に増加傾向のあるものについて質問いたします。</p> <p>(1) 市における被害情報の把握について  (2) 防犯に対する市の取り組みについて</p>	